

平成17年度 農林水産試験研究 事前評価結果

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	コメント
1	農総研	いしかわ園芸ブランド品種育成研究	H18～22	伝統野菜や機能性を備えた野菜など、特色のある園芸品目について優良系統の選抜や機能性の検索などを行い、「いしかわブランド」として通用する有望な品目について育成を行う。	A	・できるだけ早く、研究の成果を上げてほしい。 ・目標年度がもっと早くても良いと思う。
2	農総研	スイカ・サツマイモの評価向上技術研究	H18～20	砂丘地の基幹作物であるスイカ・サツマイモについて、市場での評価をさらに高めるため、現在問題となっているスイカの皮境糖度及び年内に出荷するサツマイモ糖度を向上させる技術を確立する。	B	・砂丘地と赤土との違いも調べてみることも必要ではないか？ ・本県の基幹品目に資金を投入し、更に強くするという考え方が大事。特にサツマイモにおける五郎島ブランドは全国に通用するので更に改善改良を加えていくことが大切である。
3	畜総	ウシ受精卵の保存・移植法の開発	H18～20	ウシ受精卵の移植技術において、人工授精に劣らない受胎率が得られる凍結保存・直接移植法を開発する。	A	・酪農家と提携して、産子数の確保を図ることが大事である。受精卵への実用化、普及も大切である。 ・能登牛ブランドは大切である。県内の飲食業、観光業界が最も望んでいる商品です。安価、高品質の牛肉の生産が一日も早く進むことを期待する。
4	畜総	漢方薬残渣を活用した健康な豚づくり	H18～20	豚の飼料に漢方薬残渣を添加給与し、豚の腸内細菌叢を整え、自然免疫機能を活性化させることで発育促進と抗生物質の使用量を低減させる技術を開発する。	B	・消費者のニーズに応えられるように、ブランド化を図ってほしい。 ・この研究がうまくいくとすばらしい石川産豚のブランド化が計れるだろう。ただし原料供給に不安を感じる。(量的に確保が難しい)目的とする考え方は正しいが、他の方法も含め改善すべきであるが、このような研究は進めねばならない。
5	畜総	脂肪酸組成に着目した「能登牛」生産技術の開発	H18～21	牛肉のおいしさの一要因である脂肪酸組成に着目し、食品製造副産物の和牛への給与による脂肪酸組成への影響を明らかにし、よりおいしい「能登牛」の生産技術を開発する。	B	・米ぬかだけにこだわらなくても良いのではないかな。 ・特に目新しい研究という感じはしなかった。ただ品質の向上は急務である。
6	林試	カシノナガキイムシによる広葉樹の枯損被害防除技術の開発	H18～20	低地林のナラ・カシ類の枯損被害を防止するため、薬剤を用いた効果的な予防・殺虫法を開発する。	A	・森林の生態系を守るためにも防除方法を確立してほしい。 ・寺社などの樹木を守るための公共性は非常に高いが、どこかの県などで既に研究が進んでいても良いのではないかな。あるいは国の研究機関等が行うべきテーマかとも思う。
7	林試	強度間伐を取り入れた針葉樹人工林の針広混交林化に関する研究	H18～20	強度間伐による雪害や保全機能に対する影響や下層植生の多様性に与える影響を明らかにするとともに、侵入した広葉樹を活かした針広混交林化の誘導方法を確立する。	B	・強度の間伐が林家に取り入れられるのかが疑問だ。 ・直接的な経済効果は認められないが、石川の山林が自然な形で将来必要な時がくるであろう。森林資源を育てる事業であると考えている。
8	水総	アカモク(機能性成分を有するホンダワラ類)の増養殖技術開発試験	H18～22	アカモクの培養・生産技術を開発し、海面施設による効率的、安定的な増養殖技術を開発する。	B	・石川県産の水産物が増えることは産業界への効果が大きい。